



NPO あびの実 [子ども無料招待映画会]開催と作品投票のご案内

協会とあびの実の共催で10月3日に予定していた子ども無料招待公演「紙のおとぎばなし」は、会場や観客に対する新型コロナ感染防止対策を検討した結果、来年3月に延期し、あびの実会員のみの舞台鑑賞公演とすることにしました。

この公演延期に伴って空いてしまった10月は、「子ども無料招待映画会」を計画しました。小学生以上のお子さんにむけて、10月31日におじゃれホールで開催する予定です。

今回は上映作品を、候補作3作品の中から、島内在住者によるネット投票で選びます。大人の方は「子どもたちに観てもらいたい」と思う作品、お子さんは「観たい」と思うものを専門フォームから送っていただきます。締め切りは9月5日です。協会ホームページからアクセスできますので、文化協会会員のみなさまもぜひお気軽に投票にご参加下さい！



新型コロナ関連での、町補助金その他についての要望書を提出

現在、新型コロナで世界中が大混乱になり、八丈島文化協会の活動にも大きな影響が出ています。総会は紙上開催、JAZZフェスティバルや昨年度の芸能文化祭は中止、今後予定されている文化フェスティバルや芸能文化祭も、開催検討はしていますが、目途は立っていません。

また、事業実施に必要な経費は、島内諸団体に協賛をお願いしてきましたが、従来のようにお願いできる状態ではありません。こうした中では、せつかくの町補助金も50%補助ということですので返還といった事態が発生しかねません。

さらに、元々補助比率が高い八丈島島民大学講座や小島自然体験などは、全体的な予算調整の中で実施してきましたが、他事業の賛助金が望めなくなると、大幅な赤字になってしまいます(この事業は今年度、実施済みまたは実施予定)。

なお、文化協会への町の補助金は、繰越金が前年度の繰越金を上回った場合、その分の補助金を町が引き揚げることになっています。その結果、繰越金は年々減少しており、さらに今年度はコロナがらみで繰越金がほとんどゼロになることが考えられます。町の補助金の支給は早くも6月中旬ですから、来年度4月から6月の文化協会の運営費は底をついてしまいます。年度初めの運転資金がない状態では、事務をやる人の採用もできません。ということで、次の要望を提出しました。

(1) イベント等については、50%という目安に拘らず、必要分の補助金を

島民大学や小島自然体験などの経費。文化協会の事務員の給与部分。全体の収支での勘案。

(2) 文化協会の、年度初めのつなぎ経費についての措置

補助金で来年度つなぎ経費を保証。繰越金の30万円ぐらいまでの許容。

さらに、多目的ホール「おじゃれ」に関して、このコロナ禍で、新型コロナウイルス感染拡大予防としてオンライン配信や録画配信のための「無観客での本番利用」を選択せざるを得ない状況が出てくる可能性を踏まえ、本番使用料の減額を求めた要望書も提出しました。

※提出した要望書については、9月中旬ごろに回答をいただくことになっています。

◆新型コロナ感染拡大防止のため、公会堂の「使用者・来場者名簿」の提出をお願いしています◆

町役場からの要請により、患者が発生した場合の把握と追跡調査のため、標記の名簿を提出することになりました。氏名・電話・健康状態のチェックを行うものです。玄関に用紙と回収箱を置いてありますので、ご協力をお願いします。

八丈島文化協会 会報 第33号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2020年8月28日発行

2020年度総会は、紙上総会に・・・全員一致で議案は承認 新型コロナで、事業実施などで多くの困難が

八丈島文化協会 会長 山下和彦

残暑お見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況が続いています。感染しない、感染させないように心掛けたいものです。

さて、この状況の下、八丈島文化協会第9回総会は、紙上総会をお願いいたしました。ご協力ありがとうございました。お陰様で、第1号から第5号までの全ての議案が全員一致で賛成・承認をいただきました。文化協会参加団体の活動再開はまだまだのところが多いかと思いますが、コロナ感染対策に注意しながら、活動を継続していく努力をしたいものです。

今年度の文化協会の予定行事も、小島自然体験は実施済、JAZZ フェスは中止、島民大学講座は実施予定、文化フェスティバルや芸能文化祭は実施の方向、あびの実の行事は日程変更で実施の方向、といった内容になっていますが、状況次第では紆余曲折が予想されます。

おじゃれホールその他施設の利用人数の制限や、借りた施設の感染防止対策の問題(入場する時の対応、使用中の換気など3密問題、終わってからの消毒作業)などが想定されます。また、事業の中止や縮小に伴い、予算執行上の問題(町補助金の返還)や協賛金協力依頼の難しさなどが出てくるのが予想されます。コロナ禍の特殊事態ですので、町とも話し合い、よりよい方向に進展するよう努めたいと思います。

木下 恵美 八丈島 Soka 栄光バンドの木下恵美です。今年度から理事をさせていただきます。今年はコロナ禍の中、いろいろなイベントが中止になってしまっていて残念な事ばかりですが、八丈島の文化活動が少しでも活発に、楽しくできるよう頑張って参りますので、よろしくお願いいたします。



新理事紹介



峯尾 明日香 移住3年目になりました。地域おこし協力隊の峯尾明日香です。大学まで吹奏楽をやっておりまして、八丈島でも八丈ウインドオーケストラに入団し活動しています。移住前から八丈島は文化活動がさかんな印象があり、理事として少しでも貢献できたらと思います。よろしくお願いいたします。

八丈島自然っ子クラブ 2年ぶりに八丈小島へ上陸 (八丈小島体験事業)

今年の八丈島自然っ子クラブは、コロナウイルス対策のためしばらく活動を休止していましたが、7月中旬から会員募集を行い、活動再開することができました。

今年の小中学校の夏休みは、8月1日～23日という異例の短期間になったため、八丈小島上陸体験を夏休み初日の8月1日(土)に実施しました。

長引く梅雨がようやく明けたこの日、いかにも「夏空!」という素晴らしい天候に恵まれ、朝8時に八重根漁港集合。参加者63名が渡船2隻に分乗して小島を目指しました。

約30分の航海を経て、小島の北側に位置する鳥打地区に上陸。ベースキャンプを設営すると、まずお昼に食べる磯もの汁の材料採集をします。さすがに人の手の入っていない無人島だけあって、20分足らずでセノカミが10kg近く採れました。



ベースキャンプに戻り、小島の話聞きながらクロアシアホウドリの繁殖地になっている草原を散策した後は、いよいよお待ちかねの海遊び。スタッフが見守る中、子ども達は歓声とともに足の届かない深い海へ次々飛び込みます。ところがエボシクラゲがいるようで、痛い怖いと逃げ帰ってくる子が多数。う～ん、何だか残念。お昼には、先ほどのセノカミと、スタッフが突いたフグをたっぷり使った磯もの汁を用意。大鍋2つ分作った汁物は美味しいと大好評。あっという間に完食でした。

午後からは少し風が出てきたので、迎えの船が来るまでの間周辺の散策を楽しみ、オカヤドカリ探しや貝殻拾いなど、それぞれが短い夏の思い出をつくりました。

八丈小島体験事業には、今年も八丈島文化協会から渡船チャーター代の補助を出していただき、多くの子ども達と小島に渡って貴重な体験をすることができました。皆様にたいへん感謝いたします。ありがとうございました。



八丈島 JAZZ フェスティバル 2020

～ 子どもたちのリモート演奏動画を
ホームページに掲載しました! ～

八丈島 JAZZ フェスティバルは“子どもたちによる子どもたちのためのジャズフェス”をテーマに、Children Jazz Project(CJP)の中高生が実行委員会に加わり、毎年8月に行ってききましたが、8回目となる今夏は、新型コロナウイルスの影響により、開催を断念せざるを得ませんでした。

ステージイベントはできませんでしたが、新たに結成した“CJP2020”のメンバーとともに「今できること」を考え、今年ならではの「八丈島 JAZZ フェスティバル 2020」をお届けすることになりました。

“CJP2020”のメンバーは、「JAZZ フェスが好き」「音楽が好き」という気持ちで集まった、中1から高3までの12人。実行委員会の主催でZoomによるオンライン会議を開催し、「やってみたいこと」を出し合って「リモート演奏」にチャレンジすることになりました。「リモート演奏」は集まっての演奏ができなくなった緊急事態宣言下に急速に広まった新しい表現方法で、それぞれの演奏を自宅で録画したものを合わせて1つの演奏にするものです。

今回の試みでは、演奏を中心に、子どもたちが考えたPRの言葉や子どもたちが撮影した八丈島の風景写真も取り入れました。動画は「八丈島 JAZZ フェスティバル」の公式ホームページ(QRコードから読み取り可能です)に掲載されています。ぜひご覧ください。



八丈島 JAZZ フェスティバル
<http://www.hachijo-jazz.com/>



<9月～11月のイベント予定> (協会主催・後援、加盟団体主催・出演等)

※新型コロナウイルスの影響で中止になる場合があります。最新情報は八丈島文化協会サイト内の「イベントカレンダー」でご確認下さい。

- 9月 第79回島民大学講座 4日(金)「気候変動と私たちの暮らし」
商工会研修室 5日(土)「感染症に抵抗する人間～カミュ『ペスト』を読む」
- 10月 31日(土) あびの実子ども招待映画会 多目的ホールおじゃれ



都立大教授陣と考える「気候変動」と「感染症」



第79回八丈島民大学講座

第79回八丈島民大学講座(東京都立大学・八丈島文化協会共催)が、9月4日(金)・5日(土)午後7時30分から(終了予定9時)、八丈町商工会研修室(町役場庁舎内)で開かれます。今回のテーマは、第1日目(4日・金)が大学院都市環境科学研究科・松本淳教授による「気候変動と私たちの暮らし」。今年もすでに熊本・大分・福岡・山形などで、過去に経験したことのない豪雨のため洪水や土砂崩れが発生、大きな被害をもたらしています。この講座では、豪雨、猛暑、台風の巨大化など、異常気象の実態と人々の生活に及ぼす影響について考えます。なお、これは昨年9月台風の影響で開講できなかったものです。

第2日目(5日・土)のテーマは、「感染症に抵抗する人間～カミュ『ペスト』を読む」。ノーベル賞作家アルベール・カミュの『ペスト』(1947年)は、ペストが発生したアルジェリアのオラン市が都市封鎖され、孤立した状態のなかで、必死にこの「悪」と闘う医師リウーたちの生き方を描きます。予期せぬ不条理と直面した時に、人間のいかなる連帯と抵抗が可能なのでしょうか。人文社会学部人文学科・西山雄二教授と、20世紀フランス文学の傑作を新型コロナウイルス感染症が世界的に広がる現在の状況に即して読み解くことで、人間の実存や連帯の可能性を考えます。(できれば新潮文庫『ペスト』宮崎嶺雄訳をご用意ください)

受講にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、健康状態を記入した受講票の提出(施設管理者に情報提供)、三密を避ける、マスクの着用、手・指の消毒などにご協力ください。

なお、東京都立大学がオンラインシステムを使って同時配信する予定です。詳しくは、講座事務局(090-8036-1826)へお問い合わせください

